

けやき会通信

ごあいさつ

管理栄養士 瀬戸井 舞

皆様、はじめまして。夏の猛暑も影を潜め、過ごしやすい時期になってまいりましたが、いかがお過ごしですか。私は、昨年の春から栄養管理室に入職しました、瀬戸井と申します。簡単な自己紹介と私が管理栄養士を目指したきっかけについてお話ししたいと思います。

私は大学生時代、学友会(中高生でいう生徒会のような組織)に所属し、活動していました。規約の改訂、組織改革、イベントの企画立案及び実施、大学との協議などなど…。様々なことに携わり貴重な経験を得ることができました。学業と学友会活動の両立は難しく大変でしたが、無事に国家資格を取得することができ、現在関東中央病院に勤めさせていただいております。

私が管理栄養士を目指したきっかけは、自身が入院したときの食事にあります。私は 15 歳の頃、マイコプラズマ肺炎になり、緊急入院しました。入院当時のことはよく覚えていませんが、体調が回復して初めて食べた食事のことは今でも鮮明に覚えています。その日のメニューは“ざる蕎麦”でした。ちょうど年末年始に肺炎になったものですから、年越し蕎麦・おせちが食べられなかった私にはお蕎麦を食べられることがとても嬉しくて仕方がありませんでした。初めての入院で心細い中、食事の時間が何よりも楽しみになっていきました。そして、入院前は食事がほとんど食べられていなかったのに対し、食べられるようになると、体調も順調に回復していきました。この経験から、食事の大切さを改めて実感し、管理栄養士を目指すきっかけとなりました。

食事は治療の一環であり、病院の献立には管理栄養士をはじめ、調理に携わる方の様々な思いが込められています。私は、患者様に食べることを通して元気になっていただきたいと考えています。また、“病院の食事は美味しくないのでは？”とされている方でも、食事が楽しみになるようにしていけたらと思っています。不慣れなことも多いですが、日々勉学に励み、努力してまいります。これからよろしくお願いたします。

